

Economic Indicators

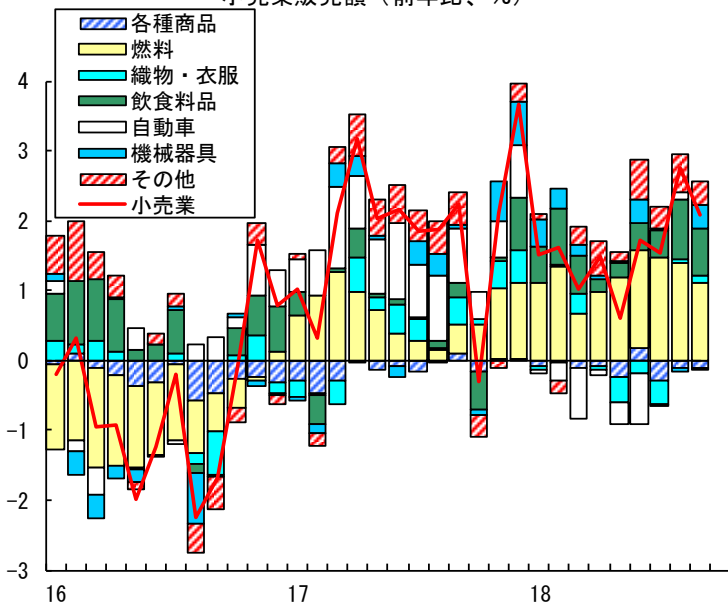
発表日: 2018年10月29日(月)

小売業販売額(2018年9月)

～名目では好調だが、実質では7-9月期は前期比でマイナス～

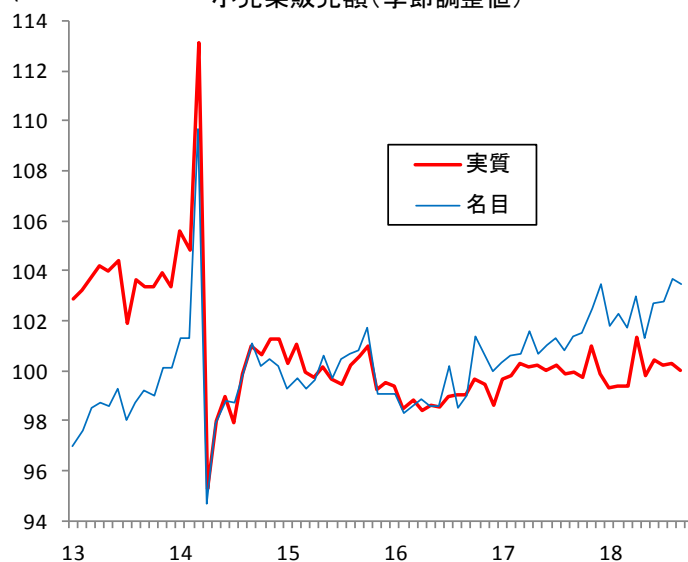
第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 新家 義貴 (TEL: 03-5221-4528)

小売業販売額 (前年比、%)



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

小売業販売額 (季節調整値)



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

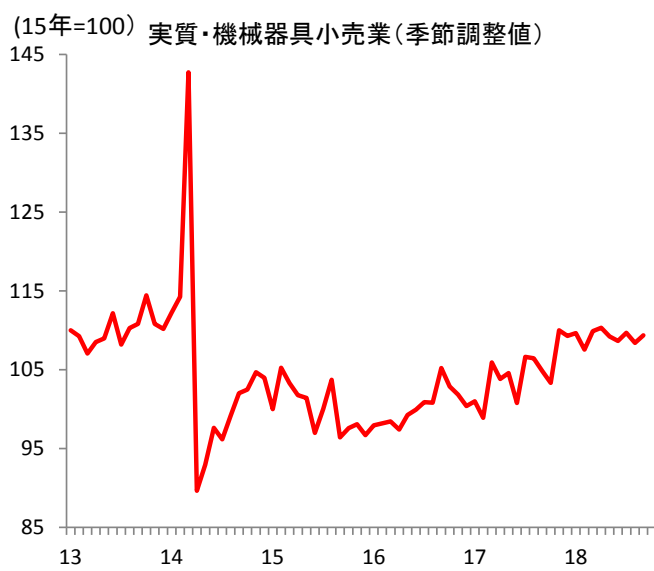
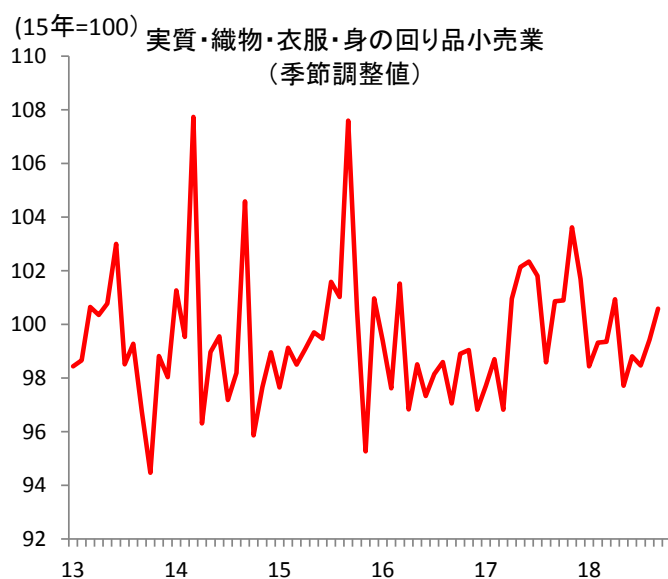
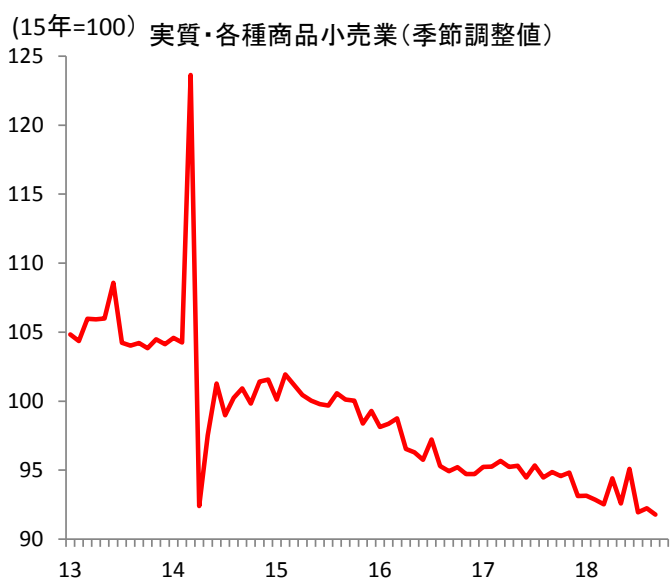
(注) 実質化及び実質値の季節調整は第一生命経済研究所

経済産業省から公表された9月の小売業販売額は前年比+2.1%となった。前月の+2.7%からは伸びが鈍化、季節調整済み前月比でも▲0.2%と減少しているが、8月の高い伸びの後には落ち込みは小幅なものにとどまった。7-9月期でも、8月の貯金が効く形で前期比+1.0%と高い伸びになっている(4-6月期: 同+0.4%)。公表値だけで判断すれば、夏場の消費が好調に推移したようにも見える。

もっとも小売業販売額は名目で示されていることに注意が必要である。このところの小売業販売額は、野菜価格や石油製品価格の上昇により見かけ上押し上げられている面が大きく、実質でみればかなり姿が変わる。実際、公表値(名目)では7月が前月比+0.1%、8月が+0.9%、9月が▲0.2%だが、価格変動の影響を考慮した実質値(実質化と季節調整は筆者)でみると、7月が前月比▲0.1%、8月が+0.1%、9月が▲0.3%、7-9月期では前期比▲0.3%(4-6月期: 同+1.2%)と小幅減少する形になる。7-9月期の実質消費は低調に推移したとの評価になるだろう。4-6月期の高い伸びの反動が出たことに加え、相次いだ台風等の天候不順による外出機会の抑制、野菜価格の高騰などが下押し要因になったものと思われる。

なお、業種別(実質値、季節調整値)に7-9月をみると、自動車小売業(+2.2%)と織物・衣服・身の回り品小売業(+0.3%)がプラスの一方、各種商品小売業(▲2.2%)や燃料小売業(▲

1.7%)、飲食料品小売業(▲0.5%)、機械器具小売業(▲0.2%)、その他小売業(▲0.3%)が減少している。事前に期待されていた猛暑効果については明確には確認できない。一部業種では押し上げ効果があったものと思われるが、前述の悪材料の前にかき消されてしまったようだ。また、燃料小売業や飲食料品小売業は、名目ではそれぞれ+1.2%、+1.0%とプラスだが、ともにガソリン価格や野菜価格の上昇によって見かけ上押し上げられており、実質では弱い動きにとどまっている。その他、各種商品小売業の大幅な落ち込みについては、天候不順による下押しのほか、百貨店等でのセール時期の前倒しにより4-6月期が押し上げられていた反動が出ている面もある。



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(注) 実質化及び実質値の季節調整は第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。